

2024 年度 企業訪問の実施について（実施概要）

2024 年 11 月 8 日

静 岡 産 業 大 学

磐 田 ・ 藤 枝 事 務 局

キ ャ リ ア 支 援 課

はじめに

静岡産業大学ではキャンパスに來訪する企業・団体・機関のご担当者様との情報交換だけではなく、学生の新たな就職先の開拓と採用側が求める人物像を探り、キャリア教育や本学職員の育成にフィードバックすることを目的に企業訪問を行っている。

1. 2024 年度の実施概要

（1）実施機関

2024 年 8 月 20 日（火）～2024 年 10 月 29 日（火）の期間で 9 日間

（2）訪問先

今年度は静岡県中部、西部に事業所を置く、15 の企業・団体を訪問し、業種は金融・保険、メーカー、商社、物流・倉庫だった。

（3）訪問の際に聴取した内容

求める人物像、採用後の育成方法、大卒者が担当する業務（職種）、インターンシップ・仕事体験の実施状況、採用選考に関することなどを聴取した。

2. 訪問を終えて

人手不足感が強まり、多くの企業・団体・機関が採用活動に苦勞する中、訪問した多くの企業・団体が採用基準を緩めず、それぞれの求める人物像に沿った人物を採用しようと努力していることが印象的だった。そうした企業・団体に共通していたことは、「自社（団体）の事業を理解した人物を採用したい」、「設立の趣旨や理念に理解があるかを最終的な決め手にしている」との意見が多数聞かれた。この点を挙げた企業・団体は、事業が長く継続し、公共性の高い事業を行っていることが共通していた。

採用後の育成方法はそれぞれの事情に合わせて行われており、特筆すべきような特徴は見られなかったが、成果を重視する企業は OJT による教育を重視しているように感じた。職種に関しては多くが総合職として採用した後、メーカーを中心に製造部門での仕事を数年程度経験した後、管理業務に異動する方法を採っていた。近年の増えている“高卒で採用していた部門への大卒の配置”を行っている企業・団体は無かった。

インターンシップ・仕事体験の内、仕事体験は多くの企業・団体で採用している実態が確認できたが、インターンシップは要件を満たすプログラムの構築や実施が難しいようで、採用している企業・団体は少ない印象だった。また、仕事体験に参加した学生を 3 年生の 12 月頃から“早期選考”として選考に誘導する方法を用いる企業が訪問先でも見られた。

採用活動はどの企業・団体も数年前と比べて苦勞しており、予定人数を確保するために様々な工夫を行っているようだった。ある企業では 1 次選考で筆記試験は行うものの、原則 2 次選考の

面接試験で必ず人物考査を行うなど、人物本位の傾向はさらに強まっているように感じた。一方でその企業では大学時代に取り組んだことに関して、“なぜ、そのような取り組みをしようと考えたのか”という点を重点的に確認することで、行動の一つひとつへの思いがどれだけあるのか、どれだけ考えて行動しているのかを話してもらうことで、仕事で発揮される潜在的な力を図ろうとしていた。

特に本学では近年、資格や検定の取得・合格に結びつくような施策を重視してきたが、その結果だけではなく、資格・検定に挑戦しようと思った動機、取得・合格後にどのように活かそうと考えたのか、そしてどのような工夫を行うことで、苦労や課題を乗り換えたのか、学生に考えてもらい、語れるようになってもらわなければ、“資格を取らせた”に終始してしまうと感じた。

今回の訪問を通じて、より人物本位の採用活動を行う企業・団体は増えているが、それぞれの組織が行う事業を理解し、思いを持って志望しているか、自分が経験したことを、どのような意味があり、そこで何を考えて、どのような行動を起こせたのか、説明できるように準備しておくことがさらに求められるようになったと感じた。

以上